

# 大学通信教育の現状と課題(3)

## ——学習指導事例から——

神 谷 正 義

はじめに

すでに『教育学部論集』に大学通信教育の実態調査を中心として、いくつかの問題点を指摘するとともに、学習状況の分析を、とりわけドロップアウトの分析を試み、「大学通信教育の現状と課題」と題して発表してきた。そこでは卒業率が低く、離籍率が高いという事実にもとづき、大学としての指導体制の充実がこれからの学習社会に応える大学通信教育の役割であることを強調してきた。

今回はその線上にあって、佛教大学通信教育課程で行なわれている指導実践の一二を素材に取り上げ、担任制および新入生オリエンテーションに関する事例分析を中心に、大学通信教育における学習指導の重要性を明らかにしようとするものである。指導実践には個別の学習面接相談あるいは学生が自主的に開く学習会への援助や大学主催の学習会などあるが今回は上記の二項目を中心に論述することにした。

### 1. 担 任 制

担任制度を開始したのは1989年度からである。1989年度は卒業を目標（あわせて資格・教員免許状を取得する者もいる）とする者、すなわち本科生に対し入学許可通知と同時に「学習相談票」を送付し、入学当初およびそれ以降に学習を進める上で問題が生ずればいつでも担任に相談するよう呼びかけ、そのために指導を受けようとする者は必ず「学習相談票」をおりかえし担任あて提出するよう連絡した。しかし、「学習相談票」を受理した学生は問題が生じた際に「学習相談票」を提出し相談を受けるものと取りちがえたため、「学習相談票」の提出は著しく少なかった。因みに「学習相談票」には次ページのように記載している。

この趣旨に沿って「学習相談票」を提出してきた者が1989年度前期1年次入学者61人、3年次編入学者46人、1989年度後期1年次入学者53人、3年次編入学者11人のあわせて171人と極めて少なかった。

こうしたことをふまえて1990年度からはスクーリング履修科目の内「基礎教育一般」の講義受講生を講義担当者のクラス生とし、講義担当者を担任とし、1・2年次編入生のみを対象と

〈学習相談票〉

卒業に至るまでには学習上幾多の障害や困難な状況に出会うことがあるでしょう。そんな時、誰に相談することも出来ず、一人悩み、ひいては学習放棄につながり、入学目的を完遂すること無く、途中で脱落する方が少なくありません。

また、学習意欲は旺盛であるにもかかわらず、それをどのように形にしていってよいのかわからない方も多く見られます。

このような問題解決のために、学習相談の担任制度を設けました。

卒業に至るまで学習上の問題は遠慮無く担任まで相談してください。

あなたの担任は（ × × × × ） です。

学籍番号		フリガナ 氏 名		生年 月 日	年 月 日
連絡 先	現住所 〒			TEL	
	勤務先 〒			TEL	
※ 学習相談票提出時に相談を受けたい事項があれば記入してください。					

し、3年次編入生（編入生は「基礎教育」の単位を教材履修としているため）を対象からはずした。そして1991年4月現在次表のように学生を抱えることになった。

（表1） 入学年次別・期別による学生の動向

期別	入学年月	入学生 回数	A 入学者数	在籍者数	B 卒業者数	C 退学者数	D 除籍者数	備 考
前 期	1989. 4	1	61	53		2	6	
		3	46	17	12	8	8	
	1990. 4	1	225	177		20	28	
	1991. 4	1	266	247		8	11	
	1992. 4	1	215	215				
後 期	1989.10	1	53	48		4	1	
		3	11	6	1	3	2	
	1990.10	1	56	52		1	3	
	1991.10	1	50	50				

こうした担任制の実施、導入はいうまでもなく目標をもって入学し学習意欲はありながらも途中でドロップアウトしていく学生が多いことと、逆に卒業率のあまりにも低いことをいかにするかといった試行の過程で考え出されたものである。担任制を始めて4年目を迎える今日、

### 大学通信教育の現状と課題(3)

その意義や意味を問い質すことによって、ひいては生涯学習としての大学通信教育の課題を浮きぼりにし、さらに高等教育機関としての大学通信教育に強化されなければならない点などを明らかにすることができるとともに、教育とは、学習とは何かについても考究できると考えられるからである。

先の表1に従って担任制の諸点について検討してみたい。まずはじめに卒業率であるが、1989年4月3年次編入学者46人中12人(26%)、1989年10月3年次編入学者11人中1人(9.0%)のあわせて57人中13人(22.8%)がすでに卒業している。これに対し、すでに退学し、あるいは除籍となって目標を達成せずに離籍している者が4月および10月入学者の57人中21人(41.7%)にまで達している。すでに別稿にて1年入学者及び3年次編入学者が最短期間の4年、2年で卒業する率は7年間の平均で前者が9.4%、後者は7.4%であると報告した(いずれも前期生の場合の比率)。1989年度1年次入学者は未だ卒業に至る年数を経過していないため

(表2)

入学期間	A 入学	期 別	卒業期間	B 卒業生数	所要期間	$\frac{B}{A}$ 卒業率
1989. 4	46人	前 期	1991.3.25	5人	2年	10.8%
			1991.9.25	3人	2.5年	( 6.5%)
			1992.3.25	0人	3.0年	( 0 )
			1992.9.25	4人	3.5年	( 8.6%)
1989.10	11人	後 期	1991.9.25	1人	2.0年	9.0%

(表3)

入 学 時 期 (入 学 者 数 )										
入 学 年 月	1989.4 ( 989 人 )			1988.4 ( 907 人 )			担 任 制 ( 46 人 )			
卒 業 期 間	1991.3	1991.9	1992.3	1991.3	1991.9	1992.3	1991.3	1991.9	1992.3	1992.9
卒 業 者 数	62人	15人	73人	58人	7人	31人	5人	3人	0	4人
$\frac{\text{卒業生数}}{\text{入学者数}} \times 100 (\%)$	6.2%	1.5%	7.3%	6.3%	0.7%	3.4%	10.8%	6.5%	0	8.6%
卒業所要期間	2.0年	2.5年	3.0年	3.0年	3.5年	4.0年	2.0年	2.5年	3.0年	3.5年

(表4)

入学年月 (入学者数)	1987.4 (1449人)			1986.4 (1273人)		
卒業時期	1991.3	1991.9	1992.3	1991.3	1991.9	1992.3
卒業生数	121人	15人	76人	64人	8人	41人
卒業率	8.4%	1.0%	5.2%	5.0%	0.6%	3.2%
所要期間	4.0年	4.5年	5.0年	5.0年	5.5年	6.0年

これらと対比することはできないので、ここでは1989年度4月および10月に3年次編入入学して卒業した13人について卒業率をみると次の表2のようになる。

さらに参考として通信全体の過去の卒業に要した期間別の卒業率をみると次の表3のようになる。

因みに1年入学者の場合をみると表4のようになっている。

後期3年次編入学については過去7年の平均（最短期間での卒業）が4.1パーセントであるが、担任制においては表2にあるように9.0パーセント（ただし母数が少ないので今後のデータの蓄積を必要とするも）となっている。1989年4月3年次編入学989人の内62人が最短期間で卒業（6.2%）している（表3）のに対し、担任制では46人の内5人（10.8%）（表2）と高く、さらに2.5年を要した者は全体では1.5パーセント（表3）であるのに比し担任制では6.5パーセントと高くなっておりより早く目標達成にいたっているといえる。これに対し所要期間を3年要した者の欄では全体では平均6.8パーセントであるにも拘らず担任制では全く卒業生を出すに至っていない。しかし、3.5年を要して卒業した者をみると担任制では8.6パーセントであるのに対して全体では0.7パーセントは極めて少ないのである。さらに最短期間から3.5年を要して卒業した者の比率を相方で累計すると全体では15.7パーセントであるのに対し、担任制では25.9パーセントと高いことが知られる。このことは最短期間もしくは可能な限り早く卒業生を送り出す効果とあわせて卒業に至るまで長くかかろうと目標を達成させようとする意図が担任制の数値の上に出ているといえるようである。

次は退学者について眺めてみたい。表1に従って退学者を抽出すれば（表5）次のようになる。

（表5）

期 別	入 学 年 月	入 学 年 次	担 任 制 入 学 者 数	C 退 学 者 数	$E \frac{C}{A} \times 100(\%)$	入学から今日までの期間
前 期	1989. 4	1	61	2	3.2%	3.5年
		3	46	8	17.3%	5.5年
	1990.4	1	225	20	8.8%	2.5年
	1991.4	1	266	8	3.0%	1.5年
後 期	1989.10	1	53	4	7.5%	3.0年
		3	11	3	27.2%	5.0年
	1990.10	1	56	1	1.7%	2.0年

別稿で通信全体の状況を報告したが、それによれば1990年4月入学者で1年以内の退学者の入学者に占める比率は5.3パーセントであるが、それに比し、担任制では1989年4月1年次入学者の3.5パーセント、1991年4月1年次入学者の3.0パーセントであって、全体よりも低い数値を示している。この退学者と同様高い比率を占めている者が除籍者である。担任制における除籍者の状況は以下のとおりである。

表1から除籍者を抽出して作表すれば表6の以下のとおりである。

(表 6)

期別	入 学 年 月	入学 回数	A 入学者数	D 除籍者数	$\frac{D}{A} \times 100(\%)$	備 考
前 期	1989.4	1	61	6	9.8%	1989.1990.1991.前期3期平均の除籍率は15.6%(全体) 1991.3.31除籍者の比率は15.6%(全体)
		3	46	8	17.3%	
	1990.4	1	225	28	12.4%	
	1991.4	1	266	11	4.1%	
後 期	1989.10	1	53	1	1.8%	1990.9.30.付在籍1年で除籍となった比率は16.4(%)
		3	11	2	18.1%	1989.1990.1991後期3期平均の除籍率は16.9%(全体)
	1990.10	1	56	3	5.3%	

1989年 9 月30日付～1991年 3 月31日付の半期毎 6 期で除籍された者の内、入学後 1 年で除籍となった者は平均で15.8パーセントである。これに相当する者が担任制では前期1991年 4 月入学者266人中11人で4.1パーセントであり、後期1990年10月入学者56人中 3 人の5.3パーセントで、過去の全体平均15.8パーセントにくらべはるかに除籍率が低いのが特徴的である。

このように除籍率、退学率を見ていくと担任制によってくいとめられ在籍率を高め目標達成に何らかの効果をあげていると認めざるを得ない。

在籍率を前期入学生に限ってみると表 7 のようになる。

(表 7)

区 分	入学 1 年後の在籍率		入学 2 年後の在籍率		入学 3 年後の在籍率	
全 体	2,356人	79.5%	1,698人	65.6%	999人	43.2%
	2,961人		2,188人		2,308人	
担 任 制	247人	82.9%	177人	79.6%	83人	77.5%
	266人		225人		103人	

※ 担任制では 1 年次入学者の数値で表している。

では途中でドロップアウトした者(105人)の履修状況はどのようなであったのかをみてみたい。

(表 8)

	0 単 位 者	スクリーニング単位 のみの履修者	テキストおよび スクリーニング履修ともあり	計
除 籍 者	4人 ( 6.7%)	33人 (55.9%)	22人 (37.2%)	59人
退 学 者	3人 ( 6.5%)	23人 (50.0%)	20人 (43.4%)	46人
計	7人 ( 6.6%)	56人 (53.3%)	42人 (40.0%)	105人

すでに述べてきたように全体五期平均で除籍者に占める 0 単位者の占める比率は45.0パーセントであるが、担任制では退学者同様6.7パーセント (表 8) とはるかに低い。さらにスクリーニング単位のみ修得者の除籍者に占める比率は全体の五期平均では19.9パーセントと約 5 人

に1人の割合であるが、担任制では55.9パーセントと極めて高いのが特徴的である。あわせてリポートを提出している者、すなわち自宅学習を身につけている者が約4割を占めていることから、たんに通信課程における学習への対応ができないために除籍されるといった側面よりは、それ以外の経済的、あるいは学習時間の確保、社会的、家庭的要素によって除籍になっていると考えられる。しかし、離籍者のこうした調査については実施していないので今後に報告したい。

では担任制のもとで学習を進めている者たちの単位の修得状況はどのようなになっているのだろうか。1989年度から1992年度までの担任として受けもった学生、前期生517人、後期生156の学科別単位修得状況を表示すれば次ページ表9、10のようになる。

表9・10からいえることは0単位者が極めて少ないことである。このことはスクーリングにおいて「基礎教育一般」で学習への動機づけ、通信学習の基本としての読む・考える・書くについて具体的に指導するとともに、卒業論文作成について、題目の設定に至るまでに研究史・学説史をおさえることや資（史）料、文献の収集方法の実践などを行なっていることと無関係ではない。スクーリングに参加し、学習方法を身につけると共に学習相談の担任が明示され、そこで人間的な関わりが持たれることによって安心感の上に立って学習を進めていると考えられるのである。孤独な学習を余儀なくされる通信学生にとって担任制という制度は学習者の精神的安定を与え、かつ、その精神的安定が学習を効果的に進め、ひいては単位の修得に大きな効果を与えていることをこれまでのデータが物語っている。こうした学習上の人間関係による精神的安定が単位の修得の上にも効果をあげ全体に比しはるかに高い修得単位数となって表れていることは、以下の新入生オリエンテーションの事例によっても確認されるところである。

大学通信教育の現状と課題(3)

(表9)

前期入学生(517人)

入 学 年	回 生 (現在)	区 分	学 科								計	備 考
			B	H	L	C	F	E	W	S		
1992.4	1	人 数	2	1	1	0	3	3	11	1	22	0単位者 2人 0.9%
		修得単位	30	0	10	0	24	28	82	6	180	
		平 均 修得単位	15.0	0	10.0	0	8.0	9.3	7.4	6.0	8.1	
1991.4	2	人 数	17	23	31	15	49	24	71	17	247	0単位者 2人 0.8%
		修得単位	348	602	640	354	1,164	616	1,458	334	5,516	
		平 均 修得単位	20.4	26.1	20.6	23.6	23.7	25.6	20.5	19.6	22.3	
1990.4	3	人 数	9	12	17	0	15	17	94	13	177	0単位者 1人 0.5%
		修得単位	502	322	620	0	860	790	3,966	568	7,658	
		平 均 修得単位	55.7	26.8	36.4	0	57.3	46.4	42.5	43.6	43.2	
1989.4	4回生 以上	人 数	8(1)	6	6(3)	0	8(2)	3	34(12)	6	71(18)	0単位者 2人 2.8% (18人) (5回生以上)
		修得単位	530	340	272	0	508	230	2,015	201	4,096	
		平 均 修得単位	66.2	56.6	45.3	0	63.5	76.6	59.2	33.5	57.6	
総 計			36	42	55	15	75	47	210	37	517	

(表10)

後期入学生(156人)

入 学 年 月	回 生 (現在)	区 分	学 科								計	備 考
			B	H	L	C	F	E	W	S		
1992.10	1	人 数	3	5	9	4	9	5	12	3	50	0単位者 3人 6.0%
		修得単位	58	96	130	80	144	86	138	46	778	
		平 均 修得単位	19.3	19.2	14.4	20.0	16.0	17.2	11.5	15.3	15.5	
1991.10	2	人 数	2	4	4	0	5	5	30	2	52	0単位者 0人 0%
		修得単位	48	66	62	0	192	246	1,178	86	1,878	
		平 均 修得単位	24.0	16.5	15.5	0	38.4	49.2	39.2	43.0	36.1	
1990.10	3	人 数	4	4	5	0	3	3	27	2	48	0単位者 2人 4.1%
		修得単位	142	144	293	0	114	156	1,184	96	2,129	
		平 均 修得単位	35.5	36.0	58.6	0	38.0	52.0	43.8	48.0	44.3	
1989.10	4回生 以上	人 数	0	1	2	0	0	1	2	0	6	5回生以上6人 0単位者0%
		修得単位	0	38	156	0	0	76	198	0	468	
		平 均 修得単位	0	38.0	78.0	0	0	76.0	99.0	0	78	
総 計			9	14	20	4	17	14	71	7	156	

2. 新入生オリエンテーション

前節にて通信課程における学習の基礎についての講義を受け担任制のもとでの学生の学習状況を1989年度入学生から1991年度入学生にわたって概観してきた。ここでは1992年7月31日現在、在籍する（休学者を除く）1990年度前期入学生1,503人（入学後2年4ヶ月経過）、後期入学生629人（入学後1年10ヶ月経過）、1991年度前期入学生2,072人（入学後1年4ヶ月経過）の学習状況を、主として単位の修得状況の面を、新入生オリエンテーションの受講の有無といった側面から分析し、入学当初の指導の重要性、意義について検討を加えたい。

新入生オリエンテーション（以下オリエンテーションと略す）とは、入学直後に通信課程に学ぶ上での基本的な姿勢とあわせて学習を進めていく上での諸手続きについて、全国各地において、通信専任教員および約60名の通信教育部嘱託指導員（本科卒業生の内より委嘱）によって実施されるものである。

まずはじめに1990年度前期に入学した者の単位修得状況をを学科別にみると表11-1～7のようになる。

1990年度前期入学の状況から、2回生編入学生数は数が少ないため参考としてみる程度にならざるを得ないが、それでも20人中オリエンテーション受講者の7人には、全く0単位者がいないことである。こうした傾向、すなわち入学初期に通信教育における全般的な指導を受けた

（表11-1）

〈B 学科〉 前期

入学 年次	オリ エン テー ション 有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	16	665	41.5	1	6.2
	無	46	1,274	27.6	7	15.2
	計	62	1,934	31.2	8	12.9
2	有	0	0	0	0	0
	無	2	78	78.0	1	50.0
	計	2	78	78.0	1	50.0
3	有	18	412	22.8	3	16.6
	無	35	716	20.4	6	17.1
	計	53	1,128	21.2	9	16.9
計	有	34	1,077	31.6	4	11.7
	無	83	2,068	24.9	14	16.8
	計	117	3,145	26.8	18	15.3



大学通信教育の現状と課題(3)

(表11-2)

〈H 学 科〉 前 期

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0 単 位 者 数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	38	1,058	27.8	2	5.2
	無	58	1,282	22.1	10	17.2
	計	96	2,340	24.3	12	12.5
2	有	1	82	82.0	0	0
	無	3	118	39.3	0	0
	計	4	200	50.0	0	0
3	有	5	316	63.2	0	0
	無	23	833	36.2	1	4.3
	計	28	1,149	41.0	1	3.5
計	有	44	1,456	33.0	2	4.5
	無	84	2,233	26.5	11	13.0
	計	128	3,689	28.8	13	10.1

(表11-3)

〈L 学 科〉 前 期

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0 単 位 者 数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	48	1,984	41.1	2	4.1
	無	55	1,625	29.4	9	16.3
	計	103	3,609	35.0	11	10.6
2	有	0	0	0	0	0
	無	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
3	有	7	303	43.2	0	0
	無	22	603	27.4	6	27.2
	計	29	906	31.2	6	20.6
計	有	55	2,287	41.5	2	3.6
	無	77	2,228	28.9	15	19.4
	計	132	4,515	34.2	17	12.8

教育学部論集

(表11-4)

〈F 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	34	1,596	46.9	1	2.9
	無	63	2,335	37.0	7	11.1
	計	97	3,931	40.5	8	8.2
2	有	1	28	20.8	0	0
	無	3	118	39.3	0	0
	計	4	146	36.5	0	0
3	有	11	573	52.0	1	9.0
	無	25	1,109	44.3	3	12.0
	計	36	1,682	46.7	4	10.2
計	有	46	2,197	47.7	2	4.3
	無	91	3,562	39.1	10	10.9
	計	137	5,759	42.0	12	8.7

(表11-5)

〈E 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	20	846	42.3	0	0
	無	46	1,766	38.3	5	11.0
	計	66	2,612	39.5	5	7.5
2	有	0	0	0	0	0
	無	1	85	85.0	0	0
	計	1	85	85.0	0	0
3	有	20	909	45.4	3	15.0
	無	65	2,558	39.3	5	7.6
	計	85	3,467	40.7	8	9.4
計	有	40	1,755	43.8	3	7.5
	無	112	4,409	39.3	10	8.9
	計	152	6,164	40.5	13	7.8

大学通信教育の現状と課題(3)

(表11-6)

〈W 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	177	7,379	41.6	7	3.4
	無	281	9,407	33.4	21	7.4
	計	458	16,786	36.6	28	6.1
2	有	5	241	48.2	0	0
	無	4	116	29.0	1	25.0
	計	9	357	39.6	1	11.1
3	有	87	3,411	39.2	4	4.5
	無	187	6,717	35.9	19	10.1
	計	274	10,128	36.9	23	8.3
計	有	269	11,031	41.4	11	4.0
	無	472	16,240	34.4	41	8.6
	計	741	27,271	36.8	52	7.0

(表11-7)

〈S 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	26	926	25.6	2	7.6
	無	56	1,278	22.8	8	14.2
	計	82	2,204	26.8	10	12.1
2	有	0	0	0	0	0
	無	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
3	有	3	220	73.3	0	0
	無	16	702	43.8	3	18.7
	計	19	922	48.5	3	15.7
計	有	29	1,146	39.5	2	6.8
	無	72	2,200	30.5	11	15.2
	計	101	3,346	33.1	13	12.8

者はオリエンテーションにて学習内容にわたっての具体的な指導を受けていないにも拘らず入学後いくらかの単位を修得し、入学後2年4ヶ月を経過した時点で、在籍者に占める0単位者の比率がオリエンテーション未受講者に比して約半数となっていることである。

さらにすべての学科にあっても、オリエンテーション受講者の修得単位はオリエンテーション未受講者の修得単位に比べて多くなっているのである。

ではオリエンテーション受講生が未受講生に比べて0単位者の占める比率が低いかな否かを他の入学時期とも対比しつつあわせて修得単位の多少を、編入学年次との関係に注意して、まず1990年度後期入学者の学科別の状況をながめてみると表12-1～7のようになる。

前期生より修学期間が6ヶ月少ない後期生にあってもオリエンテーション受講の有無からみた0単位者の傾向は1990年度前期入学者の傾向と全く同様で、オリエンテーション受講者の0単位者比率ははるかに低い。全体では、174人がオリエンテーションを受講しその内0単位者は15人で8.6パーセントであるが、未受講者では450人に対し100人にも及び、その比率は22.2パーセントにも及んでいる。。約5人に1人が入学後1年10ヶ月を経過してなお0単位といった状況にいたのである(表13・14参照)。

では単位の修得がみられない者は学力的に低いからであると決めつけられるものであるかどうかについて考えてみるに、統一的な学力テストの結果を用意しているわけではないので、決定的には言えないまでも、3年次に編入学をした者の前学歴は短期大学または大学卒業生であっ

(表12-1)

〈B 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション 受講の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	8	184	23.0	1	12.5
	無	19	354	18.6	6	31.5
	計	27	538	19.9	7	25.9
2	有	0	0	0	0	0
	無	1	26	26.0	0	0
	計	1	26	26.0	0	0
3	有	4	38	9.5	1	25.0
	無	15	522	34.8	3	20.0
	計	19	560	29.4	4	21.0
計	有	12	222	18.5	2	16.6
	無	35	902	25.7	9	25.7
	計	47	1,124	23.9	11	23.4

大学通信教育の現状と課題(3)

(表12-2)

〈H 学 科〉

入 学 年 次	オ リ ー ジ ャ ン テ ー シ ョ ン 受 講 の 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	8	240	30.0	1	12.5
	無	21	428	20.3	3	14.2
	計	29	668	23.0	4	13.7
2	有	0	0	0	0	0
	無	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
3	有	2	128	64.0	0	0
	無	17	341	20.0	3	17.6
	計	19	469	24.6	3	15.7
計	有	10	368	36.8	1	10.0
	無	38	769	20.2	6	15.7
	計	48	1,137	23.6	7	14.5

(表12-3)

〈L 学 科〉

入 学 年 次	オ リ ー ジ ャ ン テ ー シ ョ ン 受 講 の 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	6	208	34.6	0	0
	無	15	272	18.1	4	26.6
	計	21	480	22.8	4	19.0
2	有	0	0	0	0	0
	無	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
3	有	6	166	27.6	0	0
	無	12	359	29.9	2	16.6
	計	18	525	29.1	2	11.1
計	有	12	374	31.1	0	0
	無	27	631	23.3	6	22.2
	計	39	1,005	25.7	6	15.3

教育学部論集

(表12-4)

〈F 学科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	8	221	27.6	0	0
	無	23	517	22.4	3	13.0
	計	31	738	23.8	3	9.6
2	有	0	0	0	0	0
	無	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
3	有	2	59	29.5	0	0
	無	17	456	26.8	1	5.8
	計	19	515	27.1	1	5.2
計	有	10	280	28.0	0	0
	無	40	973	24.3	4	10.0
	計	50	1,253	25.0	4	8.0

(表12-5)

〈E 学科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	6	110	18.3	0	0
	無	22	638	29.0	8	36.3
	計	28	748	26.7	8	28.5
2	有	0	0	0	0	0
	無	2	102	51.0	0	0
	計	2	102	51.0	0	0
3	有	8	264	33.0	0	0
	無	50	1,783	35.6	10	20.0
	計	58	2,047	35.2	10	17.2
計	有	14	347	26.7	0	0
	無	74	2,523	34.0	18	24.3
	計	88	2,870	32.6	18	20.4

大学通信教育の現状と課題(3)

(表12-6)

〈W 学 科〉

入学 年次	オ テ ー リ ン グ の 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	75	2,074	27.6	5	6.6
	無	124	2,755	22.2	27	21.7
	計	199	4,829	24.2	32	16.0
2	有	1	8	8.0	0	0
	無	3	104	34.6	0	0
	計	4	112	28.0	0	0
3	有	32	920	28.7	7	21.8
	無	84	2,341	27.8	25	29.7
	計	116	3,261	28.1	32	27.5
計	有	108	3,002	27.7	12	11.1
	無	211	5,200	24.6	52	24.6
	計	319	8,202	25.7	64	20.0

(表12-7)

〈S 学 科〉

入学 年次	オ テ ー リ ン グ の 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	8	166	20.7	0	0
	無	14	290	20.7	5	37.7
	計	22	456	20.7	5	22.7
2	有	1	2	2.0	0	0
	無	1	48	48.0	0	0
	計	2	50	25.0	0	0
3	有	1	6	6.0	0	0
	無	10	259	25.9	0	0
	計	11	265	24.0	0	0
計	有	10	174	17.4	0	0
	無	25	579	23.8	5	20.0
	計	35	771	22.0	5	14.7

教育学部論集

(表13) 〈前期全学科〉 ( )内数値は0単位者を除いた値

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	356( 341)	14,454	40.6(42.3)	15	4.2
	無	605( 538)	18,967	31.3(35.2)	67	11.0
	計	961	33,421			
2	有	5( 15)	351	70.2(70.2)	0	0
	無	13( 11)	515	39.6(46.8)	2	15.3
	計	18	866			
3	有	151( 140)	6,144	40.6(43.8)	11	7.2
	無	373( 330)	14,638	39.2(44.3)	43	11.5
	計	524	20,782			
計	有	512( 486)	20,949	40.9(43.1)	26	5.0
	無	991( 878)	34,120	34.4(38.8)	112	11.3
	計	1,503(1,365)	55,069	36.6(40.3)	138	9.1

(表13) 〈後期全学科〉 ( )内数値は0単位者を除いた値

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	119( 112)	3,203	26.9(28.5)	7	5.8
	無	238( 182)	5,254	22.0(28.8)	56	23.5
	計	357	8,457			
2	有	0	0	0	0	0
	無	7( 7)	280	40.0(40.0)	0	0
	計	7( 7)	280			
3	有	55( 47)	1,581	28.7(33.6)	8	14.5
	無	205( 161)	6,061	29.5(29.5)	44	21.4
	計	260( 208)	7,642			
計	有	174( 159)	4,784	27.4(30.3)	15	8.6
	無	450( 350)	11,594	25.7(33.1)	100	22.2
	計	624( 509)	16,379	26.2(32.1)	115	18.4



大学通信教育の現状と課題(3)

て、すでに前学歴在学中にレポートの作成あるいは論文作成の経験をもっている者で、高校卒業直後もしくは卒業後数十年を経過して入学してくる高齢者と比し学力が低いとはいえない者である。にも拘らず1990年度前期3年次編入生では373人が未受講者でその内43人、11.5パーセントが0単位者であり、1990年度後期3年次編入生では205人中44人、21.4パーセントが0単位者である。前期生に比し後期生の単位の修得状況において異なった傾向が見られるのは前、後期制による制度上の問題から起ることであることはすでに別稿において指摘したところであるが、約5人に1人が入学後ほぼ2年を迎えようとする時期で修得単位が0であるところに問題があることは見逃せないところである。

では1991年度前期入学生の状況はどうであろうか。1990年度前期入学生と同様の傾向が見られるとすれば、そこに何らかの問題があると考えてよいことになる。煩をいわず1991年度前

(表15-1)

〈B 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	9	118	13.1	1	11.1
	無	67	1,065	15.8	16	23.8
	計	76	1,183	15.5	17	22.3
3	有	11	192	17.4	1	9.0
	無	50	709	14.1	15	30.0
	計	61	901	14.7	16	26.6
計	有	20	310	15.5	2	10.0
	無	117	2,084	17.8	31	26.4
	計	137	2,394	17.4	31	24.0

(表15-2)

〈H 学 科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単 位 数	C. 0単位者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	42	768	18.2	3	7.1
	無	89	1,116	12.5	14	15.7
	計	131	1,884	14.3	17	12.9
3	有	19	428	22.5	2	10.5
	無	39	855	21.9	8	20.5
	計	58	1,283	22.1	10	19.2
計	有	61	1,196	19.6	5	8.1
	無	128	1,971	15.3	22	17.1
	計	189	3,167	16.7	27	14.2

教育学部論集

(表15-3)

〈L 学科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	52	1,100	21.1	2	3.8
	無	61	759	12.4	10	16.3
	計	113	1,859	16.4	12	10.6
3	有	16	585	36.5	1	6.2
	無	38	473	12.4	12	31.5
	計	54	1,058	19.5	13	24.0
計	有	68	1,685	24.7	3	4.4
	無	99	1,232	12.4	22	22.2
	計	167	2,917	17.4	25	14.9

(表15-4)

〈C 学科〉 1991年4月開設のため

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	23	456	19.8	3	13.0
	無	48	716	14.9	9	18.7
	計	71	1,172	16.5	12	16.9

(表15-5)

〈F 学科〉

入学 年次	オリエン テーション の有無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得 単位数	C. 0単位数者数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	35	805	23.0	1	2.8
	無	78	1,147	14.7	13	16.6
	計	113	1,952	17.2	14	12.3
3	有	8	298	37.2	0	0
	無	49	1,186	24.2	9	18.3
	計	57	1,484	26.0	9	15.7
計	有	43	1,103	25.6	1	2.3
	無	127	2,333	18.3	22	17.3
	計	170	3,436	20.2	23	13.5

大学通信教育の現状と課題(3)

(表15-6)

〈W 学 科〉

入 学 年 次	オ リ エ ン テ ー シ ョ ンの 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得単 位 数	C. 0 単 位 者 数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	189	3,340	17.6	16	8.4
	無	420	5,565	13.2	106	25.2
	計	609	8,905	14.6	122	20.2
3	有	85	3,019	35.5	7	8.2
	無	288	5,291	18.3	53	18.4
	計	373	8,310	27.7	60	16.0
計	有	274	6,359	32.5	23	8.3
	無	708	10,856	15.3	159	22.4
	計	982	17,215	17.5	182	18.5

(表15-7)

〈S 学 科〉

入 学 年 次	オ リ エ ン テ ー シ ョ ンの 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得単 位 数	C. 0 単 位 者 数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	34	608	17.8	2	5.8
	無	88	926	10.5	33	37.5
	計	122	1,534	12.5	35	28.6
3	有	11	138	12.5	0	0
	無	29	577	19.8	5	17.2
	計	40	715	17.8	5	12.5
計	有	45	746	16.5	2	4.4
	無	117	1,503	12.8	38	32.4
	計	162	2,249	13.8	40	24.6

(表16)

〈全 学 科〉

入 学 年 次	オ リ エ ン テ ー シ ョ ンの 有 無	A. 在籍者数	B. 修得単位数	$\frac{B}{A}$ 平均修得単 位 数	C. 0 単 位 者 数	$\frac{C}{A} \times 100(\%)$
1	有	409( 373)	7,703	18.8(20.6)	30	7.3
	無	915( 705)	12,434	13.5(17.6)	210	22.9
	計	1,324	20,137	15.2	240	18.1
3	有	164( 153)	5,293	32.2(34.5)	11	6.7
	無	584( 461)	12,138	20.7(26.3)	123	21.0
	計	748	17,431	23.3	134	17.9
計	有	573( 526)	12,996	22.6(24.7)	41	7.1
	無	1,499(1,166)	24,572	16.3(21.0)	233	22.2
	計	2,072	37,568	18.1	374	18.0

期入学生を1年次・3年次編入学に限定して（2年次編入学者は少数であるために除いた。さらに後期入学者は在籍期間を1年以上充足していないので除く）学科別に眺めてみると表15－1～表16のようになる。

0単位者の状況を全学科でみると、オリエンテーション受講生では1年次入学は409人中30人で7.3パーセントであるが未受講生では915人中210人で22.9パーセントにも及ぶ。3年次編入学者ではオリエンテーション受講者は164人中11人で6.7パーセント、これに比し未受講者は584人中123人、21.0パーセントとなり、受講生の3倍強と高い比率を占めている。

1990年前期全体では受講生に占める0単位者の比率5.0パーセントに対し未受講生は約2倍強の11.3パーセントで1991年度前期の21.0パーセントの約半数値まで低下するのであるが、その内実は後の1年間で単位を修得する者も一部であって、その多くが除籍もしくは退学することによって半減するのである。

このようにみえてくると入学前の学歴のいかににかかわらず、入学当初の通信教育による学習方法およびそれらに関わる諸手続を含んだ全般的な指導の徹底が重要であることが明確になってきた。

次は前表を参照しつつ単位の修得について（0単位を除く）概観すれば次のようなことがいえる。

まず在学者に占めるオリエンテーション受講率であるが、入学時期別にみると表17ようになる。

（表17）

オリエンテーション受講者

		1990年度前期	1990年度後期	1991年度前期	備 考
入学 年次	1	37.3%	33.3%	30.8%	
	2	27.7%	0.0%		
	3	28.8%	21.1%	21.9%	
全 体		34.0%	27.8%	28.2%	

この表からもわかるようにいづれの時期にあっても1年次入学者に比して3年次編入学者の方が受講率が低い。その要因分析はできていないが、編入学生はすでに高等教育を受けていることによる学習への自信や慣れといったものが考えられる。しかし、実際には通信課程による学習の特異なシステムをよく理解できないままに経過し、0単位者の比率を高めているのであって、配付されたテキストを自学自習方式でレポートする学習になじめないままの者が多くみられる。これに対し高卒者で1年次入学者であってもオリエンテーションを受講した者は通信課程の学習システムや諸手続について理解し、それらにかかわる不安を少しでも軽減して学習に取り組んでいることがわかる。

しかし、0単位者を除く単位修得者の状況を見ると概して1年次入学者に比べ3年次編入学

者の修得単位数は高いのである。1990年度前期1年次入学者ではオリエンテーション受講者の平均修得単位数が42.3単位であるのに対し、3年次編入学の未受講者の平均修得単位数は44.4単位とわずかながら高く、1990年度後期では1年次入学の受講者が28.5単位であるのに対し、3年次編入学のオリエンテーション未受講者は37.6単位と約10単位多く修得しており、同様に1991年度前期入学では1年次入学受講者の平均修得単位数が20.6単位であり、3年次編入学のオリエンテーション未受講者は26.3単位と高いのである。

こうしたことからいえることは高卒者で1年入学者には特にオリエンテーションの受講を義務化し、基礎教育を可能な限り入学直後に受講しやすくすることによって学習への糸口をつかませ学習意欲を高め、学習方法を身につけさせることが肝要となろう。さらに編入学生には通信システムの理解を促し、在籍率を高めるべく0単位者をいかに低くしていくかが今後の課題となろう。いずれにせよ、生涯学習といった観点からも、高等教育といった立場からも入学当初の指導や通信教育における学習方法を体得させることが重要であることが明らかになった。

しかし、指導に関わる指導者の配置や人材養成といった大学自体の教育指導体制の確立はいうまでもないところであるが、未だ不明瞭、不明確であり、確立されていないといわざるを得ないのが今日の日本の大学通信教育の現状であり、抱える課題でもある。

### 3. おわりに

担任制における状況ならびに新入生オリエンテーション受講・未受講者の状況を特に単位の修得状況、0単位者、離籍者の上から検討を重ねてきた。その結果、データの上からは担任制による学生の学習状況は新入生オリエンテーションを受講した学生よりもよりよい状況であることが判明した。またオリエンテーション受講生は未受講生より0単位者も少なくかつ平均修得単位数の面で上廻っていることも明らかとなった。たしかに通信教育は自学自習を旨とする遠隔教育で学習者の主体的な取り組みを基礎とする教育形態であったとしても、できる者だけやれば良いといったものではないことが記述した一連の実践データからも明らかとなった。教育はどこまでも人と人との関わりの中に信頼と安定をベースとした大学と学生との緊張関係の中で主として通信による方法を媒体としつつ、つねに両者が対話できるものでなければならない。教育・学習の過程は対話による自己存在への自覚の過程であるとするならば、まさに通信教育はこの点をいかに構築していくかがポイントになると考えられる。そうした意味で学習者の内的経験と学習状況の関連などを研究する必要に迫られるが、これらのことについては、学生の自主的な学習活動の実態分析や意識調査を必要とするので別途に発表したい。

